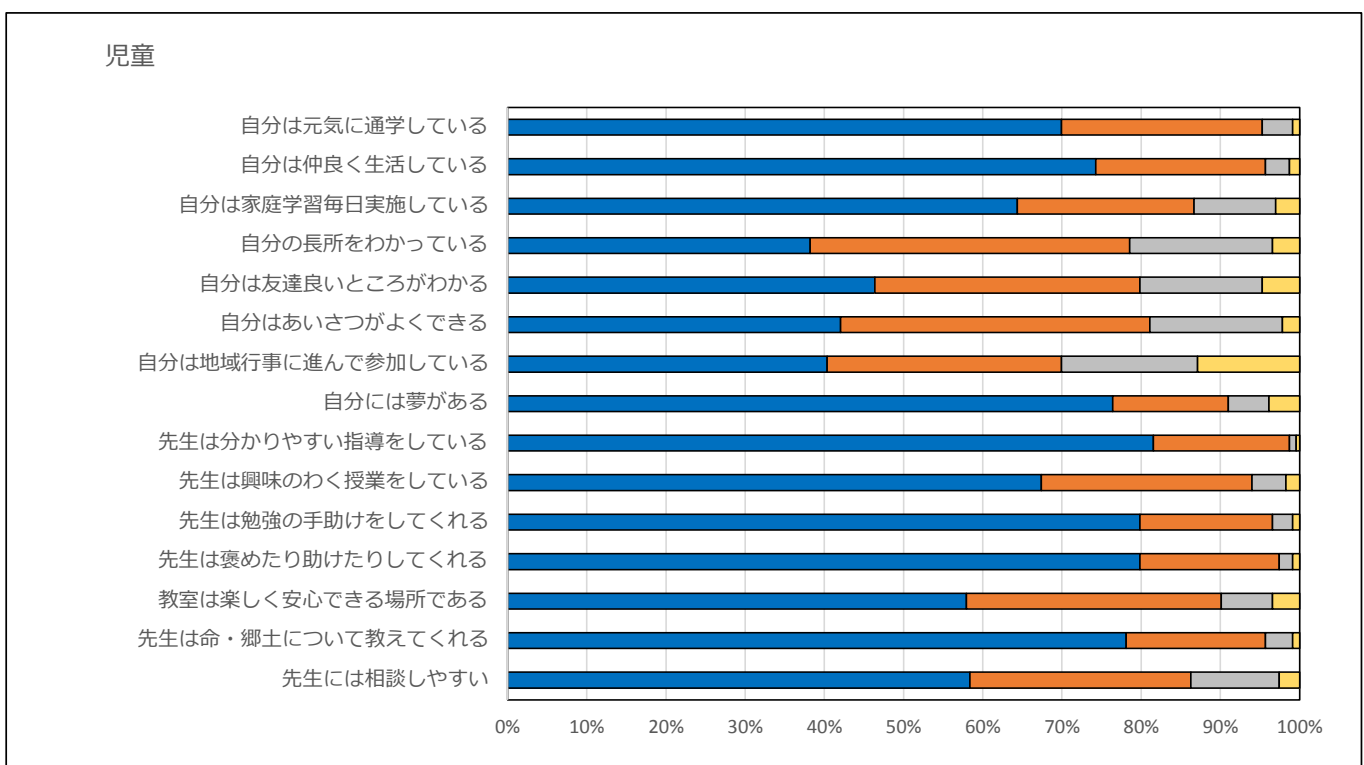
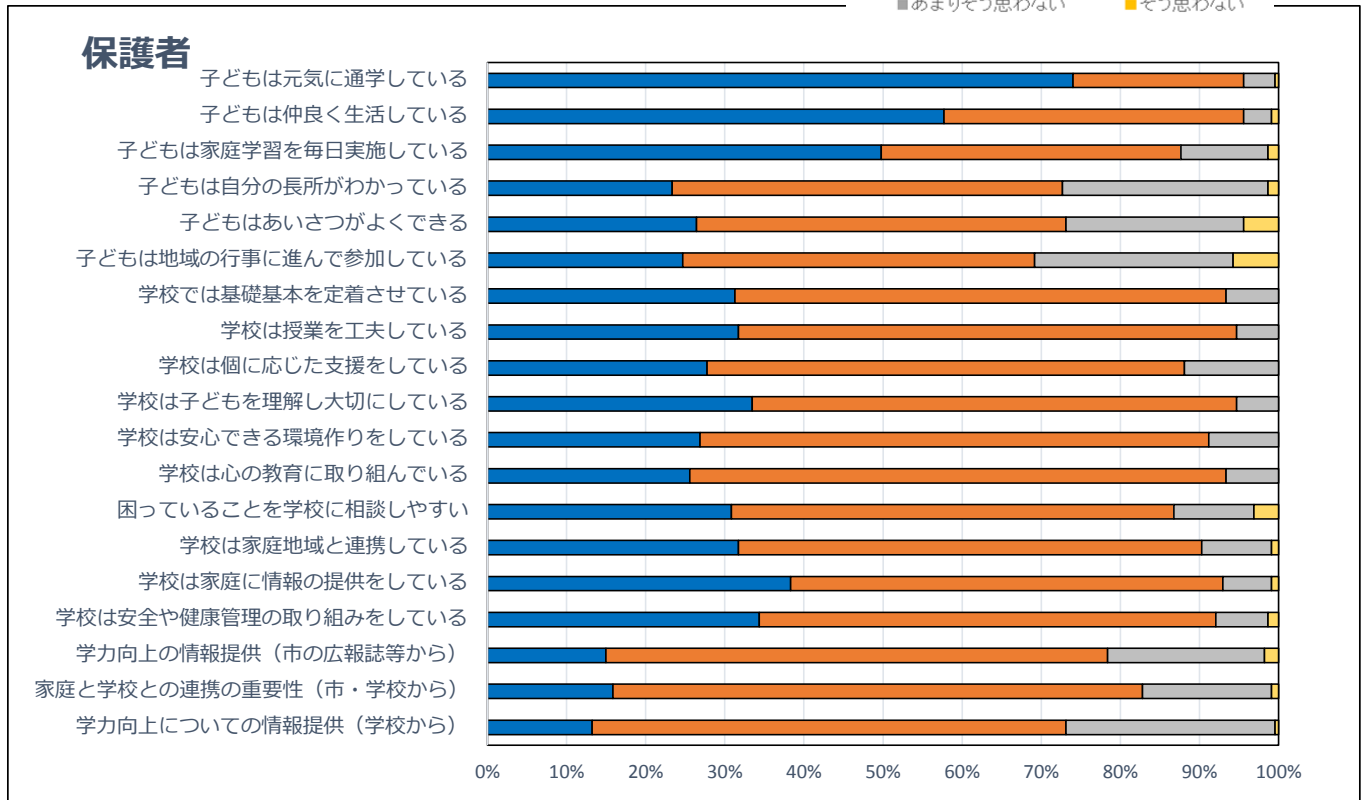


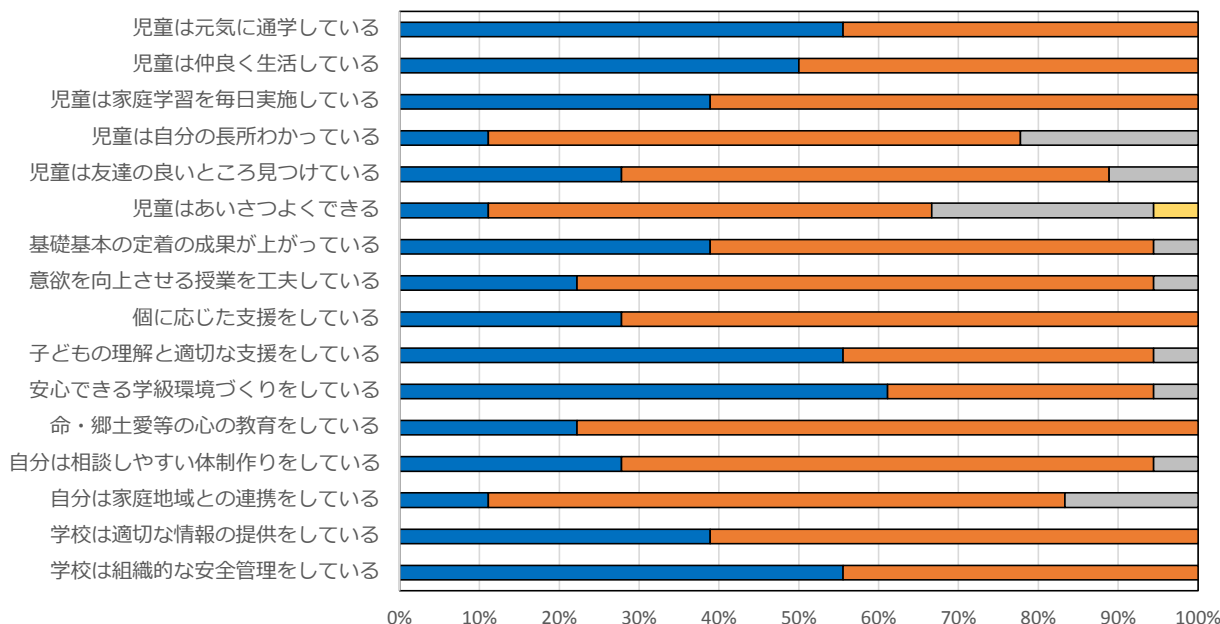
3.学校評価(平成30年度 第2回目)

ここでは、1月に実施した平成30年度の第2回目の保護者・児童からの学校評価と教員の自己評価についてお知らせしています。集計の結果から、『そう思う』+『まあそう思う』を【良い点】、『あまりそう思わない』+『そう思わない』を【改善点】と捉え、分けて記述しました。お忙しい中、評価アンケートにご協力いただき、ありがとうございました。

■そう思う ■まあそう思う
■あまりそう思わない ■そう思わない



教職員



回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を改善を要する意見としてとらえました。

【良い点】

- ・保護者の「基礎・基本の定着」「授業を工夫」「個に応じた支援」、児童の「分かりやすい授業」「興味のわく授業」「勉強の手助け」は同義の項目ですが、いずれも肯定的な回答でした。英語教育、プログラミング教育をはじめとして授業改善に取り組んできた結果だと嬉しく思います。今後も研修を進めていきます。
- ・児童、保護者、教員とも、「自分は元気に通学している」「自分は仲良く生活している」が、高い肯定感を示しました。児童が楽しく元気に登校してくることは、学校の原点です。今後もより楽しく安全な学校を目指していきます。
- ・「心の教育に取り組んでいる」が高い肯定感を示したのは、道徳の教科化を見据えて、道徳の授業はもとより学校生活全体を通して取り組んできた成果だと思います。

【改善点】

- ・「地域行事に進んで参加している」は、児童・保護者とも肯定感が最も低い項目でした。しかし、2学期は地域の催しや交流イベントが多かったためポイントは上がりました。祭頭祭を契機に家庭や公民館等と連携して、児童の参加率アップを目指していきます。
- ・「あいさつ」については、児童と保護者・教員の評価に最も格差が見られました。児童は、教室や廊下等の校舎内では大きな声であいさつができています。しかし、登下校時などの校外（地域社会）でできる児童は減ってしまいます。あいさつをされれば返せるけれど、自分からはできない子がまだ多くいます。あいさつは地域社会でできてこそ身に付いたと言えます。今後も家庭地域共々、根気強く児童への声かけをしていきたいと思えます。
- ・「学力向上についての情報提供」が低めの肯定感でした。学校生活についてはホームページ等で毎日公開していますが、学力向上面の提供も進めていきたいと思えます。回答に対し、「そう思う」「まあそう思う」を肯定的な意見、「あまりそう思わない」「そう思わない」を否定的な意見としてとらえました。